

「GAP手法に関する意見交換会」議事概要

日時：平成19年12月21日（金）14：00～16：40

場所：那覇第二地方合同庁舎 2階大会議室

（出席者数：一般67名、マスコミ7名）

1. GAPについての情報提供

（省略）

2. パネルディスカッション及び意見交換

出席者

○生産者	TROPOkinawa代表	加賀哲彦 氏
○生産者	有限会社 図師農園 代表取締役	図師賢児 氏
○食品事業者	イオントップバリュ株式会社グリーンアイ商品本部取締役本部長	植原千之 氏
○消費者	生活協同組合コープおきなわ副理事長	大城京子 氏
○内閣府沖縄総合事務局農林水産部農畜産振興課環境保全型農業振興専門官		仲宗根盛昌
●コーディネーター 内閣府沖縄総合事務局農林水産部消費・安全課長		比嘉一也

—パネルディスカッション—

● コーディネーター

・主に消費者の立場から発言お願いします。

○ 消費者（大城京子 氏）

- ・消費者である個人の立場と消費者自身が組織した生活協同組合としての立場から発言。
- ・相次ぐ不祥事に食への信頼は揺らいでいる。
- ・今年の相次ぐ不祥事から学んだことは、人と人が繋がっているつもりが、その繋がりが希薄になっていたということ。商品を開発するとき商品化までの過程に作る人と食べる人の出会いと思いの交流を通して共感しあえたからこそ安心があり、生産の現場と食卓を結ぶ信頼関係のレールで繋がっていた。
- ・これまでも、①生産地、生産者が明らかであること、②栽培方法が明確であること、③組合員と生産者が交流できるという産直3原則の基、顔の見える関係を重視してきた。
- ・生産者の健康への配慮と環境への影響を配慮した生協版とも言えるGAPに取り組むことにした。生産者と消費者が一緒に成長していくことを目指している。
- ・これまでの制度では、認証を受けるときにお金がかかり認証を受けられない生産者もいることから、生協では消費者と生産者の二者の認証でこの生産工程管理システムを育てていこうと考えている。
- ・食料を巡る環境は厳しくなっている。食料自給率の低下、地球の環境破壊等。
- ・私たち消費者の狙いは、家族の健康、子供の健やかな成長と安心な未来、健康な体で老後を幸せにすごすことである。生協の進めるシステムは、難しいものではなくやってみようとする意志をもつ

た生産者に対し、一歩ずつ共に育っていきましょうと呼びかけるシステムである。

- ・日本の農業は高齢化が進み後継者が育たない現状が続いていることからも、このシステムが敷居が高いものであったり、金銭的な負担で門を閉ざすようであってはならない。行政の皆様のご支援をお願いしたい。

● コーディネーター

- ・加賀さん、コープおきなわの点検を受けた結果はどうでしたか。

○ 生産者（加賀哲彦 氏）

- ・コープおきなわから11月に点検を受けたが、改善項目として指摘を受けたのが3項目であった。基本的な点検項目64項目（全項目だと約200項目）のうちの3項目で、1点目が野焼きを止めてくれと。2点目が圃場と作業小屋を離した方が良いこと、3点目が農薬保管台帳を作ることであり、早急に改善した。
- ・農薬保管台帳は、何が何処にいくら残っているのではなく、何をどれ位使ったか記録するものであり、農薬の効率的な管理が可能となった。

● コーディネーター

- ・図師さんからGAPを実践している立場から発言をお願いします。

○ 生産者（図師賢児 氏）

- ・イオンのGAPの取組みはすごいと思うが、コープおきなわさんと同じように「農業者を守る」ということを言って欲しい。
- ・有機栽培や特別栽培などは、農薬等化学的要素のみに注目しているが、GAPは物理的なものとか生物的なものまで加味している。例えば、有機JAS認証を取った圃場でキュウリを作ったとしても、何らかの要因で農薬がかかってしまう場合があることや、箱詰作業中の病原菌や小石やガラスの破片混入等の可能性があり、GAPではそう言うところを含めてチェックしている。

● コーディネーター

ほかに何かご質問等ございましたらお願いします。

○ 内閣府沖縄総合事務局（仲宗根盛昌）

- ・コープおきなわさんから、チェック項目が64項目、細目を入れると200項目というお話があつたが、私ども（行政）が進めようとしているのは、基礎GAPで20項目を設けている。加賀さんの取組を見れば、基本的なことで当たり前の項目かも知れないけれど、当たり前のことから農家（産地）へ普及して行きたい。

● コーディネーター

- ・生協の農産物の産直について、説明をお願いします。

○ 消費者（大城京子 氏）

- ・生協のGAPでは合格基準を設けていない。生産者には消費者の口に入る物を取り扱って入るんだという自覚を持って、安全な農産物を生産するためにGAPに取り組んで欲しいと思っている。生産者には優先順位をつけて可能なところから実行してもらうことで、農家と一緒に成長していく関係を作っていくたい。

● コーディネーター

- ・イオンのGAPの現場での取組について、説明をお願いします。

○ 食品事業者（植原千之 氏）

- ・GAPというのは、品質や安全を担保する道具と考える。GAPに取り組むことが目的ではなく、それを通して消費者に信頼される安全なものを生産するのが狙いである。
- ・産地を指導する人の教育に行政の支援を願いたい。
- ・イオンでは産地自らのチェック、イオンのチェックに加えて第三者によるチェックを行う仕組みになっている。

● コーディネーター

- ・グローバルギャップをアジア向けに考えているようですが、どうのような作物の輸出を考えていますか。

○ 食品事業者（植原千之 氏）

- ・イオンの店は東南アジアに少ないで、出店していくたいと考えている。その地域で求められているものをこれから考えていかなければならないが、米や果物等の需要があるのではないかと考えている。
- ・中国においては、経済発展とともに所得の高い方がどんどん増えていて、価格が高くて良いものは売れている。日本産は、信頼されているが、一度問題が起これば信用を失う可能性もあることから、イオンではグローバルな基準に基づきキチッと管理し、なおつ第三者に適正に評価されるものを輸出あるいは国内で販売できたら良いと考えている。

● コーディネーター

- ・これから沖縄県においてGAPを広めるためのメリット、デメリットについて発言をお願いします。

○ 生産者（加賀哲彦 氏）

- ・GAPについては、導入に向けての資料が多い。チェックされて気持ちのいい人はいない。
- ・農家同士が作付状況等の情報交換を行い、お互いに点検しあえる仲間作りが必要。
- ・ポジティブリスト制度導入の時のように、農家同士のコミュニケーションがうまくできれば案外GAPの導入は容易ではないか。

○ 内閣府沖縄総合事務局（仲宗根盛昌）

- ・収穫した後に検査するよりも生産工程を管理した方が、工程管理の中で無駄を省くことができ、問題が起こった場合の原因究明にも役立つ。また、消費者や食品事業者の信頼を得られることからGAPとはそういう点でも有効。

● コーディネーター

- ・宮崎と沖縄では、共通の作物も多い。沖縄でGAPを普及するための提言をお願いします。

○ 生産者（図師賢児 氏）

- ・GAPの普及に関して色々な面で環境が整っていないように思う。私たち農業者がやれる部分と行政がやるべき部分がある。例えば、水の問題であるが、経営規模の拡大とともに河川（水源）を幾

つも抱えることになるが、農園側で水質検査を河川ごとに行わなければいけないので経費が嵩む。水質検査は、水源管理者が行うべきではないか。このように、農業者がやる部分と行政がやる部分の関わりが多くなってくるので、解決するために環境を整える必要がある。沖縄でGAPを推進していく上でも、農業者の立場と行政の立場の環境を整えるための話し合いが必要と思う。